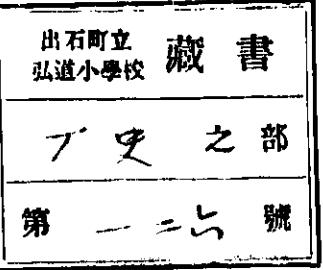


但馬考

二



200  
260  
813

禁書

組馬考卷之三

正書地理第一

出石城臣櫻良輪轉

朝来郡

此地ニ朝来山ト云名所アリ取テ郡ノ名トセリ俗ニ此郡ニ  
イニス栗鹿ノ神國中ノ一ノ宮ニヘ諸ノ神々朝コトニ來リ  
見ヘ五フ故ニ朝来郡ト名ツケシト云ハ臆說ナラニスヘテ郡鄉  
ノ名ハ其地名ヲ取テ名ツクルト古美也

日下部系圖ヲ考ルニ表禾ノ次男正八位下荒島トイフモノ  
藤原ノ朝廷ヨリ奈良ノ朝廷ニテ此郡ノ大領トナル其玄孫  
従八位上國守平安ノ朝廷正暦廿年庚辰又大領トナル在任

十二年國守ノ子ニ至奈良ノ朝廷靈龜三年小領ニ任  
養老七年大領ニ轉任ス天平勝宝七年乙未死久此人ノ弟姫  
相ツイテ郡司トナル子孫衆多ナルカユヘ悉クハ舉ス  
延喜ノ頃此郡ニ傳馬五足置ケルヨシ式ニ見ユ

倭名類聚鈔ニ載ル郷八

山口 桑布

伊田 賀都

東河 朝来 粟鹿 磯部

以上八郷ニ村数七十九

神名帳ニ朝来郡九座大一座小八座

粟鹿神社名神大

朝来石部神社

赤瀬神社

刀我石部神社

兵主神社

伊由神社

倭文神社

足鹿神社

佐襄神社

### 山口郷

此郷ハ國ノ南境也上古浪華平城ノ都ヨリ當國ノ往來皆檣磨  
路ヲ通リシユヘ此郷ヲ但馬ノ入口トスルナリ延暦年中都ヲ平  
安城ニ遷サレテモ中古近ハ斯アリシト見エ順德院ノ八雲抄ニ  
二見ノ浦ヲ播广トシ但馬ノ温泉ヘ向フ道也ト記サセ玉ニシモ  
是故也平家繁昌ノ時ハ池大納言賴盛ノ知行所也鎌倉ノ時  
ニナリテ平家ノ所領没収セラレシカト賴朝郷故池、禪尼、恩徳  
ヲ酬シトテ件ノ家領三十四箇所故ノ如ク彼ノ家ノ管領タルヘキ  
旨壽永三年四月六日其沙汰アルト東鑑ニ見エ其内ニ山口  
ノ庄但馬トアリ

村數二十八分テ三十十九

生野銀山猪野奥野小野以上皆銀岩屋谷竹原野

上生野

簾野

丸山

菖蒲澤

津村子

右廣谷庄ト云

黒川

枝村

魚ガ瀧

大外

是ヲ黒川谷ト云

山口

口田路

奥田路

立野

新井

羽渕

口八代

奥八代

山本

土肥

平野

老波

神子畑

佐中

右山口組ト云

太田文曰廣谷庄七十町貳反 領家地頭園東御領給主  
伊賀入道女子跡 本家御分亡町四反半領家御分四十二町七反半  
按ニ上古ハ人民少シニテ土地ヒラケス故ニ郷ヲ分ツニタヽ人家ヲ以テ境  
トス中古以来人民繁シニテ土地大ニヒラケ深山幽谷モ村落ナキハ  
アラス今ノ地ヲ以テ古ノ郷ヲ見レハ山中幽僻ノ所ハ其村落ノ致殆ド

三倍セリ一郷分レテ數庄ト丸ユヘナリ

生野銀山 此山ヨリ銀ノ出ルト其始定カナラス世ニハ大同ノ比ト  
イヒ傳フレトタシカニ記セルモノナシ延喜雜式曰凡對馬島ノ銀ハ  
百姓ノ私ニ操ニカセ但馬ノ國司ハ此例ニアラスト此文ヲ以テ考レハ  
延喜ノ時ステニ貢上セシナリ中華ヘ傳リシモ久ミキトニヤ明人ノ  
兩朝平壤錄ニ但馬銀ヲ出ストアル又圖書編ニ日本ノ圖ヲ載シ三毛  
但馬ニ此所銀ヲ出スト記セリ今此山ニ傳フル記録ニハ山名右衛  
門佐祐豐守護ノ時天文十一年壬寅二月始テ鑛出シカト銀トナ  
ストシ知ラス祐豊没落シテ信長公ヨリ生熊左兵衛ヲ代官ト  
シテ置カル時ニ石見ノ商人來テ娘ヲ買ヒ國ニ帰テ銀ニ吹シヨリ  
盛ニナリシト大閻ノ時ハ伊藤石見守奉行ス中瀬金山モコレ

以前ニ出テ別ニ代官アリシラ此時兼領ス慶長三年始テ江戸ヨリ代官ヲ置タモフ間宮新左衛門ト云同十九年大坂冬陳ラコリ惣堀ノ水ヲ抜ヘキトテ銀堀ラメサル間宮其人教ヲ率テ參ニ陳中ニテ病死ス難波戰記ニモ此ヲ載テ葬地ヲ堀シトアリ是ヨリ代々ノ奉行ハ略之

河合堯章道ノ記曰但馬播磨ノ境ハ生野嶺アリ湯島川ノ源コニ止リ此嶺ヨリ分レテ南へ落ルハ姫路東ノ町口一ノ郷ト云川へ流レ出ル也生野ノ村ハ道ヨリ東ニアリテ道筋ニハアラス其奥ハ銀山也此山ハ往古ヨリ銀ノ出ルヲ絶ルナシ今ニ至テ草々銀ヲ鑿出ミテ献上ス故ニ東武ノ役人常ニ居住ノ陳屋アリ生野古城城ハ何レノ時ニ築カレニ年代定カナラス山名左衛門尉常懲法名嬾真居士ト云人イラレニヨニ真人ノ詩ト未曆月亡一日台命ヲ兼ツテ生野ノ陳ヲ開發ストニ席アリ嬾真居士ハ義教將軍ノ時富士見ニ供奉セシ人ナレハ此丁未ハ應永三十四年也イカナレハ山名ノ系圖ニモレヌ

生野本行寺今ノ口金屋セアリ法華靈場記曰京都醒井通ノ本行寺山号ハ妙銀山開基本行院日權聖人本山日典聖人在住古跡ヲ起セリ師ハ往昔房州小瀧ニ住在ニ十七世ノ貫首有シ力不受用ノ法立ニ改ニリテ歴代ヲ退去ニ關東ヲ出テ京都赴キ玉ノ其砌遠州掛川ノ邊ニテ山伏ニ行逢フ路次ナカラ問難シテ既三半時ニ及フ遂ニ對論ニ勝五ハ則長刀一フリ師ニ參ラセテ行方ナシ其所ヲボツカナク斯テアルヘキ处ナラスト人家ニ入り土地

ノ案内ヲ尋<sup>シ</sup>五<sup>ハ</sup>但馬國銀山ニ候ト<sup>サ</sup>テハ天狗イニフ<sup>サ</sup>  
ナ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>驚キ五<sup>ヒ</sup>即<sup>チ</sup>陀羅尼寺ノ要偈ヲ誦ミ心ニモアラス北國  
地ニ止リ一精舍ヲ建立シ本行寺ト号ス

按ニ日雄ハ寛永十二年ニ死セリ然<sup>レ</sup>ハ當寺ノ開基ハ其頃ノ事ニ  
又生野内<sup>ウチヤミニテラ</sup>山寺但馬順礼亡三番也岩屋谷驚原寺ニモ<sup>モ</sup>大ニ  
番ノ千手觀音アリコレハ俗ニ女ノ高野ト称シテ恭敬ス然  
ニ古書ニ見ヘタルニ<sup>ヘ</sup>別ニアケス

黒川谷 太田文三曰新井黒川保<sup>ハタケカウ</sup>十七町地頭柏原左衛門二郎  
按此谷ヨリ丹波佐治ヘ踰ル嶺アリ嶺ノ間ニ丁

黒川大明寺月菴錄曰貞治丁未ノ秋道山陰ヲ經テ但ノ黒川  
入り其幽邃ヲ愛ニテ錫ヲ駐メテ以居ル柴棚<sup>ザガラ</sup>ノ床トシ枯皮ヲ被  
トシ冷<sup>ヒ</sup>冷<sup>ヒ</sup>拓寂<sup>カジカ</sup>ニシテ世ト邈然<sup>ハヤシ</sup>タリイマタ半載ナラサルニ<sup>シ</sup>徒雲  
ノ如イタル師是ヲ拒<sup>カ</sup>氏可<sup>カ</sup>斯僅ニ一紀ニ造り縉白相韋<sup>ヒキ</sup>テ茅<sup>カヤ</sup>ヲ誅リ  
草<sup>ハ</sup>撤<sup>ハサウ</sup>ニ遂ニ梵宇<sup>ボジウ</sup>ヲナス山<sup>ハ</sup>雲頂ト<sup>シ</sup>寺ヲ大明ト云蓋シ  
山頂高寒ニシテ行道<sup>ガウトウ</sup>ニ便ナルヲ圖ルナリ

按三月菴和尚諱ハ宗光姓ハ江氏濃州ノ人也當國ニ來ラレニ初ヨリ  
山名宮内ノ少輔時源尊信ニテ遂ニ當寺ノ開山トス康應元年三月  
六一日遷化ス時源シバ々奏問ニテ謐ヲ正續大祖禪師ト賜フ應  
永十五年時源卒ス謐ヲ大明寺殿巨川源<sup>ハ</sup>ムト云コノユヘナリ永  
享以来堂舎傾廢入天文年中火災ニ嬰リテ什物殘ラス焼  
失ス夕、祖堂一ツ災ヲ遁テ今ニアリ其後況菴和尚修<sup>リ</sup>セラル  
瞽搜集ニ曰黒川大明寺佛殿ヲウハブキスルトテカシコニ行テ

法モ末ニ領フク月ノ養ニハラヌ雨ニモ袖ハヌレケリ 正保ノ初メ  
大愚和尚諸堂ヲ再建ス慶安年中寺領十五石ヲ賜フ  
○山口古城 信長記ニ天正五年十月秀吉卿但馬ノ國ヘ勧キ玉  
ヒ山口岩洲兩城セメラトシトアリ是ハ山口村ノ城山ヲ直ニ岩洲ト  
ムラ他國ノ人ノ記セシエヘ誤テ兩城トセニナリ又東鑑ノ山口太  
郎ハコノ城主ナリト云ニシモ非也太平記以前但馬ニ城ハナキ事也  
○田道 太田文曰田道ノ庄畠十五町本家一條殿 領家民部大夫  
地頭佐貫三郎御家人 公文八代孫五郎入道々佛

奥田道ニ古城アリ古書ニ見サルユヘ別ニアケス

佐中 太田文曰佐中庄三町六反 地頭江中勢太郎以清同ノ  
舍弟土用鶴丸 公文比治形部左衛門入道生阿御家人

同御領畠十一町 三代實錄曰清和十年閏十二月亡一白庚戌  
但馬國正六位上左長神ニ從五位下ヲ授ク 是當地ノツヤ  
外ニ考フル处ナシ源高寺ノ如意輪觀音ハ順礼ノ亡四番也

桑市郷 今ノ桑市村ノ辺コノ郷ナリ然ニ伊由郷ト入ニシリテ真  
境定カナラス故三郷ノ地ニ一所ニ載ス重テ其地ヲ踏ハ詳ニ是ヲ論  
伊由郷 延喜式ヲ考フレハ是伊由郷ナリ由ト田ト文字似タル  
之傳写ノ誤ニシルラ其ニ國字附シナリ今ハ伊油ノ庄ト云

村教 口多々羅木 奥多々羅木 立脇 来市 石田

伊油市場 物部 山内 納座 中野 川上 伊油山并

多々羅木 東鑑曰達久五年閏八月十二日但馬國多々羅  
岐ノ庄ヲ以テ始テ地頭補任ノ地トシ熊野ノ島居禪尼ニ付え

ヘシト云々コレ所望ニ依テナリ同九月廿三日但馬國多々羅  
岐ノ庄ハ源宰相ノ領所也而ニ熊野島居禪庄故左典日者  
彼ノ辺ヲ所望スルト他ニ異ルノ間地頭神任ノ御下文ヲ遣サル  
但限アル領家ノ乃貢課役等ニ於テハ懈怠アルヘカラサルノ  
ヨシ今日御消息ヲ遣ハサル

太田文曰本家安嘉門院御領多々良岐ノ庄十三町領家園  
東分 地頭加治八郎輔朝 按ニ是上古ノ衆市郷也  
伊由<sup>イユ</sup>庄 太田文曰近衛南殿御領伊由<sup>イユ</sup>庄七八町 地頭太田  
左衛門太郎政頼

同庄惣追捕使田一町四反 惣追捕使中務太郎閑東給

伊由<sup>イユ</sup>位田十八町二反大止歩 又竹田<sup>タケダ</sup>庄ト号ス

按ニ弘安ノ頃ハ竹田辺ニテモ伊由郷ニ屬スト見ヘリ上古、但馬ニ  
無位田<sup>イチニ</sup>其是<sup>ヲ</sup>置カル、ト何ノ時ニ始リシ未<sup>シ</sup>考

立脇<sup>タケダ</sup> 太田文曰立脇ノ御紙田五反又号<sup>ス</sup>皇嘉門院御紙田<sup>ト</sup>地  
頭佐貫<sup>サキ</sup>三郎太郎御家人 公文八代孫五郎入道<sup>ト</sup>佛

日下部系圖ヲ按ニ立脇新太夫家修ト云モノアリ東鑑山口  
太郎家任力父ナリ家任モ系図ニハ立脇太郎トアリ其子家雍  
山口太郎ト云孫ノ家刑<sup>シ</sup>山口小太郎ト云又家修ノ弟<sup>シ</sup>立脇  
東三郎大夫家廣ト云其子孫皆立脇東三郎十ト云<sup>ハ</sup>其  
頃東西ニラリシニヤ

物部<sup>モリ</sup> 太田文曰物部上庄十六町五反六十步 領家八条左少  
將地頭左近藏人 本院御領同下庄八町 領家吉田大納

言家 地頭小河左近將監 真盛 公文物部新太郎吉晴跡  
。物部ハ武士ノトナリ 舊事記ニ天孫降臨ノ時天ノ物部等二十五人  
兵体ヲ帶テ供奉シケルトアリ又日本記ニ神武天皇元年宇摩  
志摩治命ト道臣命ト兩人武功スタレタルニヨリ軍兵ヲ率ニテ  
内裏ヲ警固ス道臣命ノ司ル軍兵ヲ、來日部ト云宇摩志摩治  
命ノ司トルヲハ物部ト云古、軍團トテ諸國ノ郡コトニ武士ヲ置  
カル延喜式ニ但馬國健兒五十人アリ健兒ハ直ニ兵士也是ヲ置所  
ヲ建兒所ト云日下部ノ系圖ニ朝來郡司安樹ノ孫ニ親直ト云モノ  
健兒所判官代ト成シテアリ此所也古代武士ヲ置シユヘ物部ト也  
當地ニ高峯寺トテ頃礼ハ一番アリ法道仙人ノ墓云傳ノ本尊聖觀音

### 賀都郷

賀都ノ庄太田文曰歡喜光院領賀都庄百四十一町六反二百六十  
五步内但ニ中分地 上庄六十八町五反三百歩 下庄七十  
三町三百貳十歩 地頭安坂薩摩左衛門尉祐廣

按ニコレ今ノ安井ノ庄ナルヘシ

久世田庄 謹菩提院領久世田庄十九町八反半 國衛領久世田  
勘納十町三反 地頭江民部太夫基俊家  
村救 久世田竹田賀都市場寺内 箕江 又久世田庄ト云  
下村 殿村 奥村 藤和 久留引三安井ノ庄ト云  
西牧田 牧田園 市御堂 法興寺 比地 玉木 和田山  
桑原コレ牧田郷ト云

竹田 山名氏ノ時此所ニ城ヲ築キ太田垣ヲ守護代トシテ置ケル

重編應仁記曰應仁二年三月七日細川方ノ長九郎左衛門并  
丹波ノ内藤孫四郎足田夜久ノ軍人救ヲ催ニ山名家ノ領地但駕  
國朝來郡ヘ乱入一品栗鹿礪邊ナントニ充滿タリ山名ノ家臣  
太田垣土佐守同新左衛門父子共ニ在京ニ同新兵衛尉ハ但別  
ノ留守ニ在ケル力手勢ヲ卒ニテ樂音寺<sup>ガクヨウジ</sup>ヘ出向ニ一品ノ上木同寺  
ノ歎ラ葉武者ト見ラホセテ礪邊<sup>トガ</sup>ヘ出シ處ニ歎ハ東河ヲ發向スト  
見ヘ燒煙嶺尾ニ移ルヲ夜久野ノ加茂山ニ打上リ遙ニ是ヲ見シハ  
大將ト覺シテ旗ニ流ニ寃竟ノ勢共魚鱗ニ連<sup>ツラナリ</sup>テ廣キ野中  
ニ見ヘニケリ味方ハ小勢也如何ト思フ外ニ太田垣新兵衛片木山  
城守ツ、ケヤ者氏トテ鋒先ヲソロヘテ擊テ駁ル勇銳ニ恐テアラケ  
靡所ヲ得タリ賢シト大將ト覺シキ者ニ切テ駁ル長モ内藤モ暫シ  
戦ヒ討死シケリ大將討レケル程ニ夜久ノ歎モ敗地シ東河ヘ走  
ケル勢モ栗鹿一品ニアリニ兵モ皆悉ク散乱シテ足ヲシス逃失  
セ合戦大利ヲ得タルヨニ京都ヘ注進シタリケレハ宗全入道大ニ感  
シ焼于先年鹿苑院殿ヨリ拜領シケル御賀丸ト云重宝ノ太  
刀ニ着替ノ具足一領相添<sup>ツ</sup>テ新兵衛ニ送リ賜ル如此勝利ナレモ  
猶以テ朝來郡ハ播州丹波ノ境ナルエヘ郡中ノ者凡動スレハ歎ヲ引  
入ヘキノ由聞ヘシ程ニ守護代太田垣土佐守カ計ラヒトニテ嫡子  
新左衛門宗朝ニ一手柄サスヘシト但別ヘ差下ス宗朝此競<sup>キヨミ</sup>ニトテ細  
川領ノ丹波國ヘ乱入シ佐治ノ庄青梨山ニ陳ヲ取テ佐治芦田  
ハ云ニ及ス大山澧アタリ追悉<sup>シ</sup>打從ヘヌ又下ノ口ヨリハ是モ山名家  
ノ垣屋越中守同平右衛門大將トシテ河口和久ノ邊近亂入シテ

所ニタク雜說出來テ合戦シカク成難ケレハ是ヨリ但州へ引返シヌ然ハ青梨山ノ陳ヲ去テ但州へ歸陳シケリ

信長記曰天正五年秀吉卿但馬國へ傳キ五ヒ山口岩瀬西城セメシトシ其麿<sup>モロコシ</sup>ヲ以テ小田垣力居城竹田ヘ押寄セ手イシテ攻ラケルホトニコラヘスシテ城中ヨリ頻ニ傍言<sup>ヨリキ</sup>ヲ申シ城ヲ明渡シ一命ヲ助カツテノキニケリ○按三大閣此時當城ヲ赤松左兵衛佐廣通<sup>ヒロムツ</sup>ニ給フ慶長五年赤松自殺シテ城タヘヌ

破草鞋曰宿竹田驛

百拙和尚

山川三十里暮靄鬱鬱如蒸<sup>アガマ</sup>一宿竹田驛六鑊萍水僧瑩喰  
寒<sup>ク</sup>四壁蛾撲暗<sup>シ</sup>孤燈脚力虺<sup>ヒ</sup>虺<sup>ヒ</sup>憊<sup>ヒ</sup>嗟<sup>ハ</sup>知逼<sup>ハラフ</sup>井藤<sup>イシタケ</sup>

河合力道記曰高田ヨリ二里餘<sup>マツツ</sup>驛ナリ高田ノ馬ラコ<sup>ハ</sup>ニテ  
継<sup>ハシ</sup>ナリサレト此所ハ馬サシ能町ニテ家並タキツケリ町ノ入口右

ノ方ニ觀音堂アリ上ノ山ハ赤松氏ノ古城ノ跡ナリ此所哥<sup>キヌ</sup>絹<sup>コ</sup>織事此處ニカワラ  
テ出ス家々ニ機<sup>ハシマ</sup>立ル<sup>ト</sup>京師ノ西陳ニ似リ是ヨリ東丹波篠山  
ヘ行道ニ柳瀬<sup>ヤナギゼ</sup>ト云處アリ爰ト得比シテ絹<sup>コ</sup>織事此處ニカワラ  
スト也丹後絹ト云テ諸國ヘ賣出スモナホクハ但馬絹也又此町  
ニテ木挽<sup>ハシマ</sup>ノ漆<sup>ハリ</sup>ニテ塗<sup>ハリ</sup>タルシウル其制鹿<sup>ツバキ</sup>轎<sup>カツバ</sup>ナリト云<sup>ハシマ</sup>汎其價<sup>ハシマ</sup>  
客易<sup>ハシマ</sup>ニメテ、旅人是ヲ買求テ帰ル者多シ

此處ニ觀音寺トテ順礼七番ノ札所アリ

牧田<sup>ヒラタ</sup>太田文三牧田郷四十三町八反十歩 地頭牧田又太郎光盛  
除<sup>ハシマ</sup>方々權門領定

同位田六町二条院御領 地頭東河藤四郎長茂御家人

赤淵社 延喜式ニ出ス太田文曰赤淵社十一町百十八歩 地頭  
中勢太郎以清同舎弟土用鶴丸 ユ」牧田村ニアリ表米ノ傳記  
曰表米異賊退治ノ時波風アラクシテ船ワレヌ時ニ海底ヨリ大丸  
鮑出テ表米ヲ載テ岸ニ著凱陳ノ時其鮑ヲ携ヘ返リ朝来郡  
赤淵ニ放ツテ神トニ祭レリト一說ニハ赤淵ハ人ノ名也表禾ノ臣  
下トシテ異賊ヲ攻テ勲勞アリ後ニ表米ト氏ニ神トストニ說ニ  
ニ古書ニ見ヘスサレハ何レ力是ナルヲラシラス

法興寺 太田文曰法興寺六町四反 地頭佐々木信濃四郎左  
衛門尉泰茂 不出注文之間任古帳註進之

比治 太田文曰穀倉院領比治庄拾九町五反貳百五十二步  
領家吏長者 被召置閑所之後地頭未補 公文比治太郎  
入道生心御家人○玉木村護念寺トテ順礼十六番札所アリ

### 東河郷

太田文曰東河郷四拾町四反四十步 地頭東河又太郎入道行阿  
御家人 除方ノノ權門領定 八幡宮神人免亡八町二百十分但  
達長以後庄郷中分地也自弘安七年領家與地頭有ト中分矣  
否之相論云 延喜式曰刀我石部神社アリコレ太田文八幡宮  
ニテ今ノ宮村十九ヘシ 村教八 柳原 久田和 野村  
中村 和田 宮 白井 久田和

### 朝来郷

太田文曰本院御領朝来庄六十四町五反 地頭安坂薩摩八郎左  
衛門尉 公文勢至丸御家人 同餘田十町六反 地頭同薩

摩六郎入道專生 コレ今ノ大月庄ナルヘシ

又曰東北院領殿下渡庄子布土庄五十五町 領家土御門右  
中辨 地頭隱岐左衛門入道成佛跡子息新左衛門尉破懷

村教 大月 末歲 禅音寺 柿坪 コレ大月庄ト云

巡回 喜多垣 與布土 森 榎木 溝黒 越田 三保之庄ト云

朝来山 宗祇ノ名所方角抄曰在所不分明尋ヌヘシ

山ハ今ノ與布土庄ニアリ竹田ヨリ巽ニ當ル前ハ古城山後ハ青倉山也

土人ハ愛宿山ト称ス是朝来山ノ轉セニナリ然ニ宗祇ノ時ヨリ

在所定カナラス近代ハ栗鹿ノ庄ノ山ヲ以テコレニアツナル誤也栗

鹿ト朝来ハモトニ郷也

栗鹿神社ノ在所ラ栗鹿郷ト云朝来山ノ

アル所ラ朝来郷ト云明白的矣疑フヘキナシ弔ヒロク古記ヲ考ヘ

アニ子ノ父老ニ問今日ニシテ真ノ朝来山ヲ画目ヲ見ルヘタ得タリ

タ、予ガ幸ノミニ非ス又此山ノ辛イナリ

### 懷中抄

秋ノ色ハ朝来ノ山ノ唐錦露イカナレハ分テソムラン

巡回大林寺順礼ノ十九番也サセルコトナキユヘ別ニアケス

### 栗鹿郷 村教

和賀 一品 早田 栄 栗鹿 今ハ和賀ノ庄ト云

太田文曰御室、御領和賀ノ庄四十一町九反三百四十步

地頭大膳亮秀政同舎弟五郎光秀已下後家女子六人分領

○栗鹿神社 近喜式曰栗鹿ノ神社名神大

三代實錄曰清和天皇貞觀十年十二月七日但馬國從五位

上栗鹿神ニ正五位下ヲ授<sup>ク</sup>

同十六年三月十四日但馬國正五位下栗鹿神ニ正五位上ヲ授<sup>ク</sup>

○官記曰上社火火出見中社籠神下社豊玉姬

トヨタマヒメ

諸神記曰栗鹿大明神但馬國一宮也上社彦火火出見尊  
中社龍神女神也下社豊玉姬命觀諸如此又曰伊奘諾伊奘冉  
相生之兒大日神月神素戔鳴尊合三神也和銅元年戊申  
八月十三日筆取神部八島勘註言上正六位上新羅將軍  
神力直根闇

諸神根元曰但馬國栗鹿大明神之元記伊奘諾伊奘冉尊  
相生之兒大日神月神素戔鳴尊合三神也和銅元年歲  
次戊申八月十三日未世ノ時古敵新羅禍害癡リテ吾威定惠  
ノ箱ヲ宿置しに宮崎ノ松原ニ新宮ヲ建立ニ新羅ヲ降伏ス  
ヘキノ由ヲ書付テ吾座下ニ置テ其石居ニ於テ柏柱ヲ立テ  
宮殿ヲ造ル間彼新羅自然ニ降伏消除ニナシト云件ノ新  
宮ハ延長元年ヲ以テ佛經遷御已ニ舉ル宮崎ノ宮ハ北  
巨海ニ臨西絕域ニ向フ異賊來寇ヲ防カニ力為也タ、我朝  
德遐方ニ及フノミニアラス高麗國境モ接テ祀サスト云  
貝原ノ和爾雜ニ今ノ在記ヲ引テ曰式ニ極、一座也彦火火  
出見尊放

神社啓蒙ニ龍神ヲ籠神ニ作ル傳字ノ誤ナラン國華萬  
葉記モヨシニ從テ改メス。倭論語ニ當社ノ神詠トテ  
空晴テ嵐ニ松ノ響コソアラハレ出之神ノ心ヨ

當社ノ曰記ヲ考フレハ人皇十代崇神天皇ノ御宇栗鹿山ノ  
麓ニ鎮座ニ玉ノ十五代神功皇后三韓征伐ノ敕願トシテ奉  
幣使アリ四十六代天武天皇ノ御宇祭礼始ニ清原冬滿卿奉弊  
使タリ人皇四十六代清和天皇ノ貞觀十六年三月十四日天下  
疫癒ノ御祈アリ敕使倭朝臣時之卿人皇九世代後宇多院  
弘安年中蒙古ノ賊船長別博多津ニ到ル時ニ神德現ハルヲ  
以テ正一位勲十二等ヲ進メラル別宮五座アリ離宮ハ一品村  
ニアリ守山ノ神社ト云當社七不思議アリトイ卫氏神秘ト  
シテ妄ニモラサヌタヽ末社ノ池中ニ毎年二月四日茗荷ヲ生  
ス其長短ニヨリテ年穀ノ吉凶ヲ知ル

太田文曰當國一宮栗鹿太<sup>大社</sup>神百丁七反二百丈六步 領家

染殿法印跡

地頭島津常陸入道

但雖相觸不出註文之間仕建久九年百姓註文注進之

今ノ社領ハ三十三石アリ又法琳山鹿園寺社僧ト称ス則順礼  
十八番也神主ハ大杉氏日下部宿祢ト云 按此鄉ハ西丹  
波ノ境ナリ柴村ヨリ遠坂ト云嶺アリ嶺ノ中十八町

### 石部郷

太田文曰磯部庄五十二町壹反二百五十步 本所伊勢大神  
宮 領家地頭閑東御預 紿主若宮別當跡 不出註文之間  
仕古帳注進之 日下部系岡ニ朝來郡司安樹ノ苗裔ニ奉仕家  
俊ナト云モノ磯部貫首トナリニアリコレ三十塙河鳥羽比ノ人ト見ニ  
○村救八柳瀬 大垣 渓田 新堂 大内 野間 塩田 金浦

万葉和歌集寄物陳思  
白檀石邊山常石有命哉恋乍居

新葉集

讀人シラス

山路ヨリイソヘノ里ニ今日ハキテウラメツラシキ旅衣哉  
此ニ歌ハ古未其所定カナラストソ若ハ此所ニモヤアラン  
赤松ノ居城竹田ハ賀都郷ナルラ惺窓先生ハコ、ナリト聞ニニヤ  
赤松ヲ悼メル歌ノ詞書ニシルヨシ、テ侍リシ磯部トイ  
ヒシ所ハ海ニモアラス江ニモアラス名ニ聞エルニハタカヒヌ歌ハ略之  
塙田来迎寺ハ順礼ノ十七番也スヘテ此郷ハ東丹波夜久野  
間道アリ糠田越ト云

但馬考卷之四

地理第二

養父郡

風土記曰古老傳ヘイフ此地徃昔民家ナフニテ竹藪ノミ故ニ藪ト云今養父ト云ハ其訛ナリ此郡民家饒ニシテ竹木多シ  
倭名鈔ニ載ル郷十 糸井 石和 養父 軽部  
大屋 三方 遠屋 養春 浅間 遠佐  
以上十郷ニ村数百ニアリ高二万六百七十五石二斗七升五合  
神名帳曰養父郡社座大三座小亡七座  
夜夫坐神社五座名神大二座小三座

出石城臣櫻良輪輯

宇留波神社

水谷神社名神大

淺間神社

屋國神社

伊久乃神社

樅縫神社

兵主神社

男坂神社

佐伎都比古阿流知命神社二座

井上神社二座

手谷神社

坂蓋神社

保奈麻神社

葛神社

大與比神社

桐原神社

盈岡神社

更秆村大兵主神社

御井神社

名草神社

杜内神社

和奈美神社

夜伎村坐山神社

日下部系圖ヲ考ルニ孝德天皇第二ノ皇子表未異賊退治  
ノ勲功ニヨリテ難波朝廷養父郡ノ大領トナル其嫡子都牟自  
ト云モノ同朝廷癸丑ニ小領ニ任シ後ノ岡本ノ朝己未ニ大領ニ轉  
仕又飛鳥ノ朝ニ至ル在任三十一年癸未ニ死ス子三人アリ其後ア  
ラハレ又次男荒島未棄ニ從八位上利寶ト云モノ平安ノ朝廷寛  
平五年癸未小領ニ任シ延喜十二年壬申大領ニ轉仕又但馬大司  
蓄在ノ子親叢ト云モノ寛弘八年二月十九日養父郡ノ貢首トナル  
○類聚國史曰嵯峨天皇弘仁四年春正月丁丑但馬國養父郡ヲ三  
テ郡司ノ子妹年十六已上二十已下容貌端正ニシテ采女トスルニ堪  
タルモノ各一人ヲ貢セシム

按三風土記ニ郷十一所里五所神社三所トアリ然凡其載ル所ノ  
郷ヲ見レハ三十今ノ村也里ト別コトナシ且神社ノ如ハ式ノ考フヘキ  
アレハ此書イヨ々疑フヘシタ、別ニ真ノ風土記ト云モノモナケレハ  
止メトナリス所々ニ引用ヘリ

糸井郷

弘安太田文曰法勝寺領糸井ノ庄七十四町二反三百歩 領家  
押小路中納言家 公文小谷太郎家茂御家人 総追捕使  
善法橋榮能 今、糸井谷トモ云 村數八

朝日 竹内 和田 市場 高生田<sup>タカフタ</sup>寺内 林垣 室尾

○室尾弘安太田文曰八幡領室尾別宮二十二町壹反 下司室

弥四郎入道願蓮御家人

當山ハ朝来養父二郎ノ境ニアリ往古八幡宮ヲ勧請セリ社僧アリ

テ祭祀ヲ司ル法室寺正眼寺七宝寺コレヲ三職ト号ス中古以  
來專ラ佛事ノミヲ执行ヒ薦師如來ヲ本尊トシ八幡宮ヲハシ<sup>ハシ</sup>鎮

守ト称ス戰國ノ間ニ社領ヲ失ヘリ天正五年十一月九日豊太閤

朝来ヲ征伐シテコニ來リ五ヒ制札ヲ賜テ今ニアリ所謂三職中

法寶寺此山ヲ守リテ存在ス七宝寺高生田<sup>タカフタ</sup>ニアリ正眼寺ハ朝

來郡東河谷岡田村ニアリ今ハ亡タリ往古十三坊アリシヨシ

其名社内ニノコレリ

高生田七宝寺 是上ニ舉ル室尾三職ノ一ニシテ往古ヨリコヽ  
ニアリ日下部糸岡ニ湊勝ト云モノコノ寺ニ住持セシヨニ見ニ又真

兄ニ聖平ト云僧ノ糸井三昧堂ノ別當トナルト云モノコレト同ニ力

ラン本尊千手觀音但馬順礼弟十五番也此外林垣延命寺十

三番竹ノ内德林寺十四番也

石井郷<sup>イサワ</sup>

弘安太田文三分テ上下兩庄トス石井上郷七十町三反百七十

歩地頭土田六郎兵衛尉則直跡 是今ノ土田郷也 村教四

土田 寺谷 東谷 平野

土田風土記曰蕎麥梧桐蜀椒等ヲ出ス公穀百三十石假粟  
三十九〇河合力道記曰此辺教里ノ間畠ニ桑ヲ植テ利トス蚕  
ヲ飼ノ料也スヘテ丹後但馬ノ西國專ラ絹ヲ織テ業トスル故也  
此所ニ東見寺ト云アリ本尊聖觀音但馬順礼十二番也順礼  
記飯田ト書ニハ謬也土ヲハント讀ムトハ日本記ヨリモ見ヘタリニ  
音ハハ子假名ト通スル故ニハニ田ヲ土田ト云又土ヲヒキトヨムモ古  
訓也故ニ氣多ミハ土淵ト云所アリ

平野風土記曰木綿麻脩竹梧桐ヲ出ス

墓垣太田文曰墓垣村地頭職 土田六郎時春御家人

右二村今何レノ地ナルヤ考ヘス

領家左馬

院御領石禾下庄北二町一反百步内中分 領家左馬  
權頭重清 地頭角折太郎入道妙蓮跡 乙巳今石禾ノ庄ト称ル地  
村數七 石木村 宮内岡 法道寺 高田 堀畠 大塚  
石木村 地頭角折又太郎入道明佛子息四郎國綱  
那木谷村 地頭角折五郎入道行弘

右二村其地ヲ知ラス此郷ヲ石禾ト名ツケシモ村ニヨリテノコナレハ  
古ハアラワレタル所ナルヘシ角折力戰功ノ注文并ニ感狀等教通  
今出石ノ真覺寺ニ残レリ建武前後ノ人ト見ニ然ニ其家系未考

高瀬村 地頭角折太郎真綱女子 以上三村弘安太田文見ニ

高田 太田文曰穀倉院領高田庄三町三反百四十分 領家吏  
長者 地頭萩野三郎頼定 弘安ノ比ハヲ村モ別ニ庄トナリシト是エ  
○河合力道記曰霄田ヨリ四里餘馬驛也霄田ノ馬ヲ爰ニテ継シナリ  
町アリ能宿ナリ養父市場ヨリ一里許アリ 此村ノ仲山寺ハ  
順礼ノ十番也岡村觀音寺ニモ十一番ノ札逃アリサセルトキエヘ別三举ス

養父郷 村教七

市場 鉄屋米地 口米地 中米地 奥米地 大藪 豊崎

此郷古代社ノ名ヲ称ス故ニ座ト云ス弘安ノ太田文下ニ久

養父神社 延喜式ニ夜夫三坐神社五座名神大二座小三座

三代實錄ニ清和天皇貞觀十一年三月廿二日但馬國從五位上  
養父ノ神ニ正五位下ヲ授ク

同十六年三月十四日但馬國正五位下養父神ニ正五位上ヲ授ク  
弘安太田文曰當國三宮水谷大社六拾九町三反 領家園東御分  
預所地頭神主水谷左衛門清有此外社田諸逃ニ散在セリ多キ故略之  
○當社中古火災ニカヽリテ古記元失ス故ニ詳ナルト知レカタシ所謂五  
座八上社大己貴尊中社倉稻魂尊少彦名命下社谿羽道主  
命船穗足尼以上五座也ト云傳又弘安以来是ニ養父水谷大明  
神ト云然氏式ヲ考レハ水谷神社モトモニ名神大社也今奥米地村  
ニ坐神社夜夫三坐神社ト別名也若ハ謬テ混スルカ或ハ神秘モア  
ルカ不審別宮三座末社三座アリ末社ノ内山口神社ヲ俗ニ狼ノ  
宮ト称ス麋鹿ノ田畠ヲ害スル時是ヲ祈ル加地屋殿ハ描ノ宮ト云  
嵐ノ蚕ヲ害スルヲ防ク此外表米ノ宮アリ朝倉高清カ創建ルナリ

真事人物考二具ニス

市場 凡土記曰麻糬良材ヲ出ス公穀百九假粟四十九

按ニ上古ハ一郷コトニ市場アリ四民コニニ會集シテ諸物ヲ交易スル也又一日市七日市ノ類ハ毎月其日ヲ定テ市ヲナス也然ハ風土記ヲ作レル時ハ國中五十九郷ニ各其市場ヲ記セルナルヘビ風土記鉄テヨリ餘郷ノ市場ハモレシナリ今コノ市場ハタヽ牛ヲ賣買シテ餘物ヲ齎ハス故ニ里中多ハ牛儻也

未地 凡土記曰多ク脩竹良材大石等ヲ出ス公穀五十九假粟三十九水谷神社 延喜式曰水谷神社名神大社ト今奥米地村ニイヌ大藪 寛文年中小出公其弟内記ヲ分封セラレ此地ヲ采邑トス

輪ガ少年の時此地ニ遊テ其後山ヲ登臨ス半腰ニノ石窟アリ廣一

丈餘石ヲ置テ是ヲ造ル入テ行數十歩ニシテ殊ニ廣キ處アリ從遊ノ者問テ曰コレ何ノ為ニシテ設ケシソノヨリ其談ヲ知ラス後ニ名物

六帖ヲ讀ム其中丹列古塚ノ事アリ石擲ヲ聞ケハ珠衣ノ人アリ土

人其珠ヲ取テ腰佩ノ壓子トスコレ上古尊貴ノ人ヲ葬ル珠璫

玉押ト云モノナリト此辺ニモ塚ヲ發テ壓子ノコトキヲエシトセニイヒ

傳フモシ實ニコレアラハコレラノ石窟モ上古尊者ノ陵ナラン貝原

先生ハ上古穴居ノ地ナリト云リ其ハ真ノ石窟ニテ俗ニ墓穴ト

云モノ其說ニテ思ニ合スレハコノ石窟ノ廣モ陵墓ノ類ニハアラシ

サレト穴居ノ時ニシテハ金ノ器物十フルハアヤシ、何廿二三モ大ナ

ルハ穴居ノ石窟ニシテ小ナルハ陵墓ナラン築前ニハ处々ニアニタルアリトナニ此國ニ多ク聞エ今タヽ弔カ親見セシヲアケテ爰ニ記ス

千光寺順礼ノ九番十  
リ

輕部郷

太田文曰懇田院領輕部庄五拾六町九反百七十步 領家方丈  
沙<sup>シ</sup>地頭石岡兵衛治郎入道。鎌倉以前ニ輕部六郎俊通ト  
云モノ此郷ノ公文トナリ其孫ノ柄達三郎亮ト云モノモ同ノ公文  
トナリシト日下部系図ニ見工

村數十一 小城<sup>コニヤウ</sup> 上<sup>アシ</sup> 廣谷 畑 稲津 上野 十二所

淺野

伊豆

左近山

王見

淺野風土記曰虫食アリ 公穀六十九假栗二十七九

伊豆風土記曰柿栗桃梅等佳菓多シ公穀百二十九假栗三十九  
左近山風土記曰薰葭<sup>ケニカ</sup>良樹脩竹等ラ出ス公穀八十九假栗三十九

同山風土記曰ラホク良材ヲ出ス禽獸繁多也<sup>コシ以下虫食</sup>  
此郷ノ市場ハ廣谷村也新宮滿福寺順礼ノ七番也八番郷中ノ  
上野村神光寺也日下部系図ニ輕部村アリ今何レノ地ナルラ知ラス

三方郷

太田文曰三方紙工二十三町八反三百六十步 地頭源左衛門太郎入道  
。日下部系図ニ三方江太夫清奉<sup>トモ</sup>ト云モノアリ此地ノ下司ナルヘシ  
山名ノ時ニ三方左馬助ト云モノコニアリ其苗裔<sup>エフ</sup>ナルヘシ  
村數六 新津 宮垣<sup>ミヤガイ</sup> 樽見<sup>タケルミ</sup> 上山 中村 夏梅<sup>ナツメ</sup>

大屋郷

太田文曰尊勝寺領大屋庄四十四町五反三百步 領家右大将家  
預取越中都作那下司三方權守清行

村教十六 加保 市場 糸原 山路 笠谷 大杉 藏垣  
筏 中間 橫行 若杉 宮本 門野 須西 和田 明延  
加保 天正五年豊大閣朝来郡ヲ征伐シテ又播磨ニ皈リ五フ其  
間藤堂與右衛門ニセ美郡小代一揆ヲ退治セシメラル小代ニ小代  
大膳ヲ大將トシ上月富安ナト云モノ一黨九十二人立籠リ要害  
ヲ構ヘテ防戦ヒケレハ藤堂勢ツキ一騎ニテ大屋ヘヨヘ加保村ニ至テ  
櫛尾加賀守并ニ嫡子源左衛門ヲ頼テ而三年ヲ送ラル是ヲ聞テ  
小代一揆氏天瀧ヲ越テ責來ル藤堂モ藏垣村ニ出張シテ防戦セ  
ラル一揆氏ハ横行山ニ引籠リ隙ヲ伺テ出テ戰フ藏垣筏西村ニテ  
合戦致日シ遂ル其間ニ瓜原新左衛門ト云モノ百餘人ニテ櫛尾カ宅  
ヲ圍ム源左衛門其臣刈鉛源兵衛居相肥前守其子新兵衛次男孫  
作十ト防戦シ終ニ瓜原ヲ討取ヒ其後櫛尾源左衛門刈鉛源兵衛ナト  
藤堂ニ役テ夜討ニ入ル一揆氏驚騒キ防キアヘオル処ニ一時ニ責ツケ終ニ  
大將分ノ者凡ヲ悉ク討取ル其紛レニ一揆ノ中ヨリ藤堂ノ馬ヲキル其ニ、  
溝ヘ落シトセシラ歟氏アシタ馳集リ是討取ニトス源左衛門是ヲ見テ寄  
合フ歟ヲ追拂ヒ己カ馬ニ藤堂ヲ乗テ万死ヲ出テ一生ヲ得一揆誅  
戮ノ跡今ニ藏垣邑ノ奥ニアリ其翌日大閣播州ヨリ明延山ヲ越ヘテ  
大屋ニ至櫛尾カ宅ニ腰ヲカケラル櫛尾則河奥ヲ料理シテ是ヲ進  
賀守ニ頭巾ヲ賜ヒ源左衛門ニハ甲冑太刀等ヲ賜フ然モ大閣ハ一揆  
ノ餘黨小代谷ニアリト聞玉ヒ源左衛門ヲ前導トシセ美郡ニ赴キ  
計策ヲ以テ歎ヲ欺キ悉ク誅戮セラル是ヨリ又一揆ノ害ナニ櫛尾

ハ本姓ハ馬場氏高祖八郎ト称シテ世々丹波三住ス大内家ノ武  
臣也其子安藝守外戚ノ姓ヲ承シテ櫛尾ト称ス其子櫛尾左  
衛門後ニ加賀守ト云其子源左衛門善次ムカシ八郎コノ國ニ移  
住シテヨリ四代ニ當ル藤堂公櫛尾カ一族ノ中召仕フヘキモノヲ求  
ラルレバ人ナシ藤堂公ノ辨別ニ移シ後元錄ノ初櫛尾カ一族ノ中  
一人仕テ臣トナル本家ハ今ナリ此村ニアリ

大杉 大福寺聖観音順礼ノ廿六番也

天瀧 箍村ニアリ此山スクレテ高ニ飛流直下三千尺疑是銀  
河落カタト九天李大白カ云シニ異ナラス故ニ昔ニ天瀧ト名ツケシトナレ  
小出備別公曾テコニ遊覽シ玉ヘリ土人ハ此淵ニ不動尊在ト云  
テ御湯ト称ス又明延ノ銀山豈モ久ニキナリコノ類古書ニ見ヘ  
サレトモ地理ノ大ナルモノユヘヨニ附錄ス

### 遠屋郷

コレ今ノ遠屋也遠ト遠ト文字似タルエヘ傳字ノ誤ルラ其ニ國字ヨツテニ也  
太田文曰尊勝寺領遠屋庄四十四町八反三百七十步領家圓滿院宮  
下司達屋五郎太夫女子御家人

同寺領同新庄七町一反三百十步領家備中法眼俊快女子君  
地頭石糸田又太郎光時御家人○日下部系圖ニ輕部六郎  
力嫡孫俊村ト云モノ達屋下司トナル鎌倉以前ノ丁也

村救八大坪 船谷 三谷 森 市場 長野 能座 持河内  
圓通寺能座村ニアリ順礼ハ五番也又長野村内ニ覺海屋敷ア  
リ是其誕生ノ地也國人謬テ宗祇法師ト云宗祇ハ本國紀弘ニ

テ俗姓飯尾氏応永七八年ニ生テ文亀二年八十二歳ニシテ終レリ此國ノ人ニアラス

養耆卿

太田文曰悲田院領八木庄六十一町二十步 領家方丈沙汰地頭又三郎入道覺田御家人

村數十一 今分<sup>レ</sup>テ西庄トス 高柳 市場 今瀧 三宅  
大谷 萬久里 是六村須田<sup>ス</sup>庄ト云

尾崎園 宮 吉井 中瀬 是五村羽山ノ庄ト云

八木古城 市場ノ後山ニアリ上古平氏ノ人コニ居シト云傳凡<sup>一村ナレ</sup>此所ノ公文十トナルヘシ鎌倉ノ時表末ノ遠孫日下部氏朝倉高清入道平氏ヲ元シテ其次男ヲコニ置シレヨリ子孫八木氏ト称ス武家系圖ニ朝倉トテ戴シハ木家也山名ノ此國ヲ領セシヨリ其家臣トナリ國老四人ノ一也其時城ラ此山ニ築テラレリ應仁乱後山名家襄微<sup>ス</sup>ソレヨリ八木氏ハ一諸侯ノコトシ領地因別ノ辺ニ及テ四万石ナリシト云傳ヘリ天正年中大閣来征シ五フ其時ノ城主八木但馬守豊信防キエス因別<sup>ニ</sup>出奔ス大閣ヨリ別所某ヲ置ル別所ハ赤松入道圓心ノ末族也天正十年別所氏丹後由良ヘ移リテ後城主タヘニ延喜式ニ夜伎村ト力ケリ茅原寺西方寺ト云順礼ノ七番也

今瀧村今瀧寺八木小佐二郷ノ間ノ山中ニアリ寺ハ順礼ノ七番也コノ山ニ瀑布四十八アリ歌ニ觀音モ阿弥陀モ同シ尊引ニ心ヲスシ六八ノ瀑ト云モコレナリ土人傳<sup>ク</sup>云上古異鳥アリテ山椒ノ実ヲ

舍ニコノ瀧ノ邊ニ落ス其木生長シテ子ヲ結フ氣味辛香ニシテ他  
ノ椒ニカワリソレヨリ处々ニ接裁工是朝倉山椒ノ始ナリト東都ノ  
儒臣人見友元コレヲ賦セシ詩アリ友元ハ野節ヤセリ鶴山ト號ス

又竹洞ト云其詩曰

但馬人湯淺迪菴携紅椒一筐贈之語曰此是朝倉之名種  
也國有今瀧山絕壁千仞飛瀑百流其半岫有一株之椒辛香  
超群採之者乘籠而下攀枝而摘爾來村々接裁呼曰朝倉山  
椒。時秋陽貯陶壺而收之則隔歲猶不減辛香矣余聞之且  
喜且謝以作一律示之。

朝倉名是今瀧種未寄椒花紅且馨何日倒翻銀漢水  
重巖瀉下玉衡星園中調鷗右亟摘席上和漿屈子醒  
相約炉諺燒豆腐清茶濁酒共開餅

三宅 見原氏和事始曰惟古天皇十五年每國造倉置日本記ニレ倉ヲ諸州ニ置給ヒシ始也此倉トハ天子ノ御米ヲ收  
置倉ナリ本記今ニ國ニヨリ三宅ト云村アルハ其曰址タルヘシ是  
其國々ニ米倉ヲ置テ貧民ノ餓死ヲ救給シ為ナルヘケレハ  
イトアリカタキニウケニコソ  
琴引山 三宅村ノ向ナリ南ハ大屋郷宮垣村ニ當ル琴引坂ト  
テ往来ノ道アリ

夫木集

サノミコソ琴引山ト人ハイワメ調テモナシ蟬ノ声哉

六帖和歌

喜撰法師

イツカラカ調ノ音ノタヘニケニ琴引山ノ声ノキコヘヌ  
中瀬金山 天正元年八木但馬守豊信領知ノ時中瀬大日  
寺ノ傍ニ沙金アリ周別ノモノ來リテコレヲ見テ其山ニ金ア  
ルヲシリ其條ヲ尋テコレホル翌年堀出ス金穴ヲ石間  
飞ト云コレ金ヲ得タル始ナリモト金石ラブト云ヘナルラ此  
國ニテハ金穴ラブトイフ故ニコノ名アリ同三年別ニ又一  
穴ヲホル金ノ出ルト甚多シ一日ニ七兩ヲ運上ス故ニ七兩金  
穴ト云同五年大閣コノ郡ラ征伐シ五ラ八木但馬守防キ卫ス  
城ヲ棄テ出奔ス大閣ヨリ別所某ラ八木城ニ置テ此奉行トス同  
十年別所ラ丹後ヘ移サルコレヨリ生野ニ屬ス同年ノ秋吉井村  
ノ内百六十八石九升一合ノ地ラ分テ吏民ノ宅地トス以後金山町  
ド云奉行伊藤石見守同十二年百合山ヲ堀ル慶長五年  
東都ヨリ間宮新左衛門ラ生野ニ置テ是ラ司トラシム此時  
須田羽山兩庄ヲ隸ス以來此地ハ唯小吏ノミアリテ諸務ヲ  
司ル故ニ奉行等生野ノ下ニ記ス

淺間郷 村教十二

上小田 下小田 伊佐 坂本 大江 岩崎 淺間  
宿南 青山 深谷 赤崎 淺倉

今ハ宿南庄ト云然レ弘安ノ比教箇庄ニ分チタレハ一郷  
ラスヘテ宿南庄ト云ハイワレナキトニ

大惠 太田文三曰大惠保十四町二反百五十歩 地頭

肥塚三郎跡七人分領

大惠本郷 太田文三曰大惠本郷五町六反百三十歩  
地頭肥塚七郎入道行西 今ハ大江ト云テ一村之

岩崎村 太田文三曰岩崎村四町二百七十歩 地頭肥塚

三郎入道蓮心

与垣村 太田文三曰与垣村四町一反百八歩 今ハ坂本ノ板村也  
俗ニ要害ト云坂本ニ古城アリ其時コニニ要害ヲ設シキト  
語リ傳フルハ古書ヲ見サル人ノ臆説之

小田 太田文三曰小田村四反 地頭女子等 二反奈良弥二  
郎妻女 一反伊佐十郎妻女 一反箕田女子分

伊佐 此地ハ中古荒蕪シテ居民ナシ小出備列ムノトキ臣ガ  
祖父蟹闘シテ新田トシ耕者來集リ終ニ一村ト花其始延宝二年

ヨリ今年ニ至テ七十八年之往古ハ小田村ニ屬セリト見  
ヘタリ然レバ大惠ハ最古キ十九ニヤ今ニ至テスヘテ此辺ヲ  
大惠ノ保内ト称久祖父櫻井右近小出家由緒有ニ依之

宿南 太田文三曰嵯峨ニ尊院領宿南庄十三町百四十歩  
地頭八木左衛門大郎重直 此村ニ館ト云壺ノ内ト云處  
アリ昔ニ地頭ノ宅地ナルヘシ山名ノ時宿南左京ト云モノ居タ  
ルヨシ後山ニ古城アリ土人ハ比丘尼城ト云

浅間 太田文三曰成勝寺領浅間寺十八町六十歩 領家  
實榮律師 地頭園東御分 紿主仁夫彦二郎時隆

此村東西ノニ落アリ西ハ淺間寺分東ハ地頭分ニ浅間寺ハ昔シ  
六坊アリ真名棟札ニアリ山名民政謀役免徐状今ニ傳フ

元龜二年八木但馬守本尊某師日光月光十二神等修理ヲ  
加フ天正二年本堂建立同八年大閣寺領ヲ没收シ五ノ今ノ  
寺ハ元錄十五年ニ建立久古ノ六坊ノ内本願地藏院之トイフ  
地頭ノ地ハ應仁以来國家ノ命ニ從ハス天正年中大閣小田村  
ヨリ水<sup>ミツヨ</sup>生城ニ赴キ五ノ時淺倉ノ險路ヲ避テコヽシ經五ノ城  
主佐々木近江守出テ降ス古城ハ東ノ前山ニアリ

淺間神社西山ニアリ葛<sup>カツラ</sup>大明神ト云 足立氏曰淺間村ニアリハ淺  
間ノ神社ニシテ葛ノ神社ハ別ニアラニ式ニモ高ノ神社淺間ノ神社ト分チ  
アレハ混スヘキニアラス葛ヲ今ハ桂トカク

赤崎 太田文曰赤崎庄十七町四爻止歩 領家二條殿  
下司御家人跡 於下司職者筑後三郎兵衛入道女子與本

司令井四郎入道々蓮一相論<sup>スト云々</sup>

進養寺 太田文曰相<sup>スキ</sup>本中堂領進養寺三十二町五反  
領家聖憲法印 地頭河南木小三郎入道蓮忍

此山養父氣多ノ境ニアリ故ニ太田文ニ氣多郡ニ入ル

彼縁記曰人皇四十二代文武天皇慶雲二年行<sup>キヤウ</sup>墓菩薩開基<sup>ス</sup>  
聖武皇帝天平戊寅ノ歲勅シテ十三間四面ノ伽藍<sup>ガラニ</sup>并<sup>ヒ</sup>四十三坊  
別院ヲ建立アル寺領ハ赤崎岩中日置<sup>ハキ</sup>三村ノ中ニ於テ定行心又  
石和田保等岩出野三箇所ニテ燈油田ヲ賜フ鳥羽院仁平元  
年八月十七日御願寺トシテ大般若經六百軸ヲ寄附シ玉フ  
後嵯峨龜山二代同御願寺トシテ寺領二百畝ヲ贈賜フ建  
久八年鎌倉殿五輪宝塔八万四千基ヲ造立シ内五百基

ヲ但馬國三充ニル三百墓、當寺ニ立木二百墓、國中ノ太  
名ニ仰セテ造ラセラル是平家ノ一内滅モノ冥福ヲ修セ  
力為ナリ是ヨリ毎年御祈禱ノ卷教ヲ鑑倉ニ奉ル其諸  
文并國中ノ大名等當山ニ狼藉到以ヘカラサルノ御教書  
等教通アリ後小松院至徳草中温泉寺ノ清禪和尚ト  
云僧國中ニ三十三所ノ札所ヲ定ラレ此寺ヲ以第一番トス  
然ニ建武以来國中大ニ乱レ當山ニ城ヲ構ヘテ要害ノ地トス  
コレヨリ仏事懈怠シテ僧坊モ多ク絶ス

遠佐郷 村教十一ヶ面庄トス

綱場 舞狂 朝倉 米里 國木 小山 是朝倉庄トス

八鹿

九鹿

小佐

石原

火畠

是小佐庄トス

朝倉 凤土記曰多梧桐蜀椒ヲ出ス公穀百七十九假粟五十九  
大和本草曰朝倉蜀椒ハ但馬ノ朝倉ノ里ヲ初トス其後丹波ニ  
モ植エ香氣烈シ常ノ山椒ニ葉モカワリハリスク十三

表采、苗裔日下部氏高清入道此地ニ居住セリナリ子孫氏  
トセリ是朝倉ノ始祖之後ニ越前ニ移テ其國ヲ領ス北越軍譚ニ  
セシ朝來郡ニ住スト書シハ他國ノ傳聞エヘ郎ヲ誤ルナラン

朝來山 凤土記曰諸鳥多樹木少カラス蜀椒多其辛ノ他異リ  
國木 凤土記曰多麻桑蠶糸布等ヲ出ス公穀百二十九假粟四十九

小山 凤土記 以下虫食二丁計

八鹿 延喜式曰屋國神社 此枝村ニ大森ト云处アリ赤松左兵衛尉  
墓アリ其身ハ因幡ニテ終ラレニ丁生前ニ仁政多カリケレハ封内ノ

民是ラ追慕を土ラ築テ墓トシ歳時ニ祭祀セリトナニ其碑文曰  
乘林院殿可翁松雲居士當國竹田城主赤松左兵衛尉廣秀  
慶長五年甲申十月亡八日卒ス行年三十三歳

按ニ惺窓文集三ハ左兵衛佐廣通トアリ年七三十九十ヨリ追悼  
歌ニ学ヒテニ道ニ心ハ惑ハシニ一年タラヌ齡又三十シト云リ四十メ  
不惑ノ意アルヘシ惺窓ハ赤松ノ師ナレハカヤウノトニ謬アルヘカラス  
小佐 枝村四ツアリ 馬瀬 石塔 中村 今井 此内石塔ヲ今ハ小佐ト  
称ス昔宗祇法師妙見ヨリ飯丸サニ爰ニ宿ツテ 沖カケ舟ラサテ  
月見ル今宵哉ト吟セラレシカハ生ノ老婆コレラキ、テ沖カケ舟ナ  
ラハラサテトイフニテナシコラ舟ヲトハナドソ玉ハヌゾトイヒシト  
處ノ人ノ語リ傳ルトニセ記セルモノニアリヤ未考

妙見山 國華萬葉記曰火島村ニアリ社領亦三石別當真  
言帝釋寺當社ノ御神ハ星ノ神北辰ナリト此社ノ始ニリ年紀  
定カナラス世ニハ敏達天皇ノ御宇ト云傳ヘリ一說ニ大内家ニ  
テ妙見ヲ尊崇シヨレハ當國ノ彼家ノ墓下タリニ時ヨリ始ニ  
リシト云リサレト此山ニ文永曆應ノ比ヨリ金奇附状アレハ大内  
家ノ盛ナリシ時ヨリハ遙サキニ開ケシナリ戦國ノ間家々ノ祈願  
トシテ寄附セル社領教ヲ知ラス天正五年大閣七美郡ニ至リ小代  
一揆ヲ退治アリ其帰ルサニ此山ニ至リ社領ヲ沒收ニ五フ憲廟  
ノ時又社領三十石ヲ賜テ今ニ傳ヘリ 山ヲ石原山ト云養父  
氣多七美三郡ノ境ニアリ昔宗祇法師當山ニ詣テ 妙見山  
面白松雪トカレシヨシ云傳フレト記セルモノヲ見ス正徳年中  
ヨモキヨエキ

別當僧潛龍勝景八ツヲ撰テ詩ヲ賦シ又東都之諸大儒  
林學士父子室師<sup>ミツ</sup>礼物<sup>アツモ</sup>茂卿兄弟等十五人ノ詩ヲ請テ一軸  
トニ寺ニ藏ム今夕、世ニ刊行スルモノ僅二人取テコニ戴入

徂來詩集ニ曰石原山八景

### 山東、次野

石原山後萬家煙石原山前緣疇連<sup>ル</sup>為縁<sup>ル</sup>養又嘗<sup>ル</sup>名郡  
孝弟力田似漢年

### 箕泉清流

瀧々<sup>タリ</sup>箕泉抱<sup>ル</sup>石<sup>タマ</sup>流一瓢注<sup>ル</sup>此<sup>タマ</sup>桂<sup>ル</sup>清秋<sup>タマ</sup>因<sup>ル</sup>疑<sup>ル</sup>巢<sup>タマ</sup>又牽<sup>ル</sup>牛地  
還<sup>ル</sup>屬<sup>スルガタ</sup>扶桑<sup>タマ</sup>但<sup>ル</sup>馬<sup>タマ</sup>列<sup>ル</sup>

### 櫻溪遠花

總<sup>テ</sup>說山陰晋代<sup>ニ</sup>彰<sup>ル</sup>櫻溪禊事自<sup>ス</sup>洪荒假饌會<sup>ス</sup>祓誇<sup>ル</sup>觴咏<sup>ル</sup>  
能有<sup>ス</sup>繁花萬樹香

### 杉間秋月

山<sup>タマ</sup>因<sup>ル</sup>帝釋<sup>タマ</sup>似<sup>ル</sup>須弥<sup>タマ</sup>半夜琳空月<sup>タマ</sup>上<sup>ル</sup>時萬樹風杉遮<sup>ル</sup>不盡<sup>ル</sup>  
重<sup>ル</sup>葉<sup>タマ</sup>蜘蛛<sup>タマ</sup>垂<sup>ル</sup>

### 嵐峯紅葉

夜<sup>タマ</sup>嵐峯嵐染成峯<sup>タマ</sup>錦樹錦逾明<sup>ル</sup>何人裁<sup>ス</sup>作<sup>ル</sup>袈裟<sup>タマ</sup>  
着<sup>ス</sup>為謝諸天太<sup>タマ</sup>有情<sup>ス</sup>

### 四山晴雪

溪臺雪霽<sup>ス</sup>盈<sup>ル</sup>罔<sup>ス</sup>謂是山陰道上<sup>ヨリ</sup>直置<sup>ス</sup>應酬<sup>ス</sup>無復暇<sup>ス</sup>  
恰如乘<sup>ス</sup>興夜舟未<sup>ル</sup>

霧海朝暾

浩々雲波訴陸沈，偏聽万籟似潮音。  
須臾日照千山出，寺在蓬萊第幾岑。

北溟眺望

蹴空遠浪散天華，帝釋臺頭眺望賸。  
千丈丹梯何所處，倚身北斗四仙槎。

按二茂卿名雙松別二徂來卜號又俗名萩生惣右衛門郡山記室停雲集曰奴見山八景山在徂州南國華

山東沃野

畝畝縱橫萬頂連，溝通水利引其泉。  
壤肥禹甸煦之濕，賦比雍列上之田蠶繭早成桑柘地。  
鳥鳶兼飽稻梁天，白頭村叟齡無百。  
稻說未逢荒政年。

櫻溪遠花

幽谿花合幾重之一色，春光曲曲同素艷。  
不寒三月雪清香，欲度半山風暮雲。  
鳥過畫屏裏，朝日東懸明鏡中。  
遠向仙源應有路，漁舟欲向短蓑翁。

箕泉清流

寒水一潭清若霜，石間脉脉下雲岡。  
何知未派能通揖，左愛源流堪泛觴。  
小鼎分來僧茗熟，一瓶汲去佛花香。  
不須臯錫，逆泉出漱瓊瑤傍道場。

杉間秋月

金氣凜然古樹林，夜闌月色故來臨。  
明輝靜照棠禽夢，

幽境時聞木客吟，風拂枝頭琴瑟爽。  
露凝葉底玉華深，山僧偶向清陰坐。悟了無名真理心。

### 嵐峯紅葉

林壑氣高霜正飛，遙岑楓樹爛生輝。  
織成疑是天孫錦，染出應裁山鬼衣。  
夕日半啞朱閣聳，朝峯斜捲絳紗圍。  
秋鴻自似春鴻度，完向花雲紅處飛。

### 四山晴雪

天邊積素微雲衢，璀璨晴輝用畫圖。  
有嶺盡如披白練，何峯不復點明珠。  
光眩日色花經眼，氣逼風威粟滿膚。  
漫道香爐峯頂雪，若斯銀界玉山無。

### 霑露海朝暾

碧靄濛々鎖海門，咸池殘夜湧紅暾。  
溟中半射銀濤色，雲外總銜璧月痕。  
光燁豹毛餘氣澤，影浮鼈背曙輝煊。  
望中疑有漁舟出，不見輕帆逐浪翻。

### 北溟眺望

寺臨無地出塵寰，海色遙來妙見山。  
積水遠圍三嶼外，怒濤高蹴九霄間。  
樓高蜃氣青天濕，雲新鵬程白日闇。  
誰得乘槎凌碧落，超然遙祀斗牛還。

按二南景春字國華北海卜號人俗稱八南部權藏松  
平民部大輔ノ記室也

法華靈場記考ハ京都具足山妙覺寺ノ番神堂、  
往昔但馬國養父郡アリシテ天文十八年移サレシ

トアリ此郡ニテ何ノ寺ナリシ未考太田文ノ中ニモ此類  
多シ今コレヲ略シテ妄ニ議<sup>ヨリ</sup><sub>キ</sub>セス

